

移住者のためのご案内： ニュージーランドにおける 幼児期教育と学校教育



目次:

はじめに	3
ニュージーランドにおける学校教育（教えることと 学ぶこと）の理念	3
幼児教育	4
学校制度	5
学校で教えること	9
学校の運営について	13
親と学校の関係	18
ニュージーランドの教育に関する図書	19
略語	19
便利なウェブサイト	20

Printed 2008. Revised 2010

Afat Xiao

fatlianto.xiao@minedu.govt.nz

Translated into Japanese by Ririko Oyane

liliko1437@yahoo.co.jp

はじめに

この案内書は、ニュージーランドの教育についてよりよく理解したいとお考えの移住者の方々に向けてまとめられています。簡潔でわかりやすく英語で説明されたものを翻訳してあります。

ニュージーランドにおける学校教育 (教えることと学ぶこと)の理念

ニュージーランドでは生徒は学ぶこと、そして教えることの中心にいます。学ぶということをどのように経験し、見いだしていくかということを教育と考えています。生徒の積極性が学習の過程ではたいへん重要です。なぜなら生徒と先生、生徒どうし、生徒と周りの人たちによる話し合いとかかわり合いが学び教えることの基になるからです。クラスの話し合いに積極的に参加しなかったり、先生に対して質問しない受け身の生徒は不利な立場になります。

幼児教育

0～5 歳の子供のほとんどはプレイグループ、プレイセンター、託児所、幼稚園、エデュケーション アンド ケアセンターあるいはテコハonga へ通います。

プレイグループ (Playgroups) は地域社会にあるグループです。親・保護者が集まり、子供のために遊びを通した教育プログラムを用意します。プレイグループでは、参加している子供の半数の親と一緒にいなければなりません。子供は毎日最大4時間、プレイグループに来ることができます。教育省(MOE)はプレイグループの親・保護者にプレイグループに関わる各種情報、支援、学ぶ機会、援助金などを提供します。

プレイセンター (Playcentres) プレイセンターでは親・保護者が集まり、遊びを通して子供の幼児教育のお手伝いをします。プレイセンターを利用できるのは生後直後から学齢期になるまでの子供たちです。プレイセンターは国のNZプレイセンター連盟に属しています。地元の協会は親たちにプレイセンターを運営するための教育プログラムを提供します。プレイセンターの参加費は通常少額です。

託児所 (Home-based care) は親・保護者が最大4名の幼児のために自宅を開放して教育や面倒を見るところです。全日あるいはそれより短い時間となります。親・保護者のかかわる学びのプログラムについては、組織の有資格の責任者によって支援されます。この責任者は子供の安全、健康、学びの進歩をチェックします。有料となります。

幼稚園 (Kindergartens) は幼稚園協会によって運営されており、先生は幼児教育学の準学位 (ECE) あるいは幼児教育学の学士 (ECE) などの資格をもち、幼稚園教諭として登録されている者に限られます。通常、年長の子供は毎日午前幼稚園に通い、年少の子供は週3日午後だけ通います。通常、子供は3歳になると幼稚園に通い始めますが、最近では2歳から通い始める子供もいます。また、最近では全日制の幼稚園もあります。幼稚園からは両親に対して、寄付や学費をお願いしています。

エデュケーション アンド ケア センター (Education and care centre) は全日あるいは何時間かの業務になっています。地域社会あるいは個人によって運営されており、ある特定の文化や信仰、教育方針が基礎になっていることもあります。先生は幼児教育学の準学位 (ECE) あるいは幼児教育学の学士 (ECE) などの資格をもち、幼稚園教諭として登録されている者に限られます。センターにもよりますが、子供は生後直後から学齢期になるまで通うことができます。学費が必要になります。

テ コハンガ レオ (Te Kohanga Reo) はマオリ語の文化にしかりと身を置くプログラムとなっています。子供は生後直後から6歳まで通うことができます。

詳しくはwww.ece.govt.nz のearly childhood education (ECE) をご覧下さい。

学校制度

義務教育は6歳から16歳までです。義務とは、子供を6歳の誕生日から16歳の誕生日を迎えるまで学校に通わせなければならない親や保護者の義務のことをいいます。子供は5歳のお誕生日から入学でき19歳の学年末まで学校に通うことができます。

初等教育 (Primary schooling) 初等学校 (プライマリースクール) と一貫校 (エリアスクール) は子供にとっての最初の学校教育機関となります。生徒は高学年を含まない初等学校 (コンプリューティヴ プライマリースクール) で6年生まで、高学年も含む初等学校 (フル プライマリースクール) で8年生まで、一貫校で13年生まで通うことができます。初等教育段階での教育目標は：聞く/話す、読む/書く、算数、それに社会性の発達 (見て試す事から学ぶ、質問をしたり考えを深めることを学ぶ) です。

初等の高学年教育 (Intermediate schooling) 高学年のみの初等学校 (インターメディアイトスクール) は7年生と8年生のための学校です。初等学校の高学年と中等学校の低学年 (中間学年) の学校 (ミッドスクール) は7、8、9年生のための学校ですが10年生の生徒が通うこともあります。お子さんが一貫校に入学した場合は1年生から13年生まで同じ学校で過ごすことができます。一貫校は通常、村落地域にあります。7つの必修分野のほかに生徒は思考力の向上、自己評価の構築、他者とのかかわり、自己表現の発展を学び、中等教育機関に入る準備をしています。

中等教育 (Secondary schooling) ハイスクールまたはカレッジの名称を持つ学校 (セカンダリースクール) は9年生から13年生、あるいは7年生から13年生までを受け入れています。男子校、女子校あるいは共学校があります。(上記の一貫校を参照して下さい。)

学校の種類：

公立校 (State schools) は国立学校でありそこでは国で定められた教育課程に基づいた教育が行われます。初等教育の段階では生徒は通常、男女混合となりますが、中等教育機関に上がると男子校か女子校になることもあります。

一部公立の私立校 (State integrated schools) はかつての私立校で現在では部分的に公立校の制度を取り入れています。国の教育課程を教えるほかに、信仰などの独自の特徴を持っています。特別の信仰団体に属する生徒はこれらの学校に優先的に入学する権利があります。学校用地や施設が公のものでないため「アテンダンス デュー」とよばれる特別な費用をとって資産代にあてることもあります。

特殊学校 (Special schools) は公立校であり特殊な教育を必要とする生徒、たとえば身体障害、知的障害、言語、行動、また知覚などの障害をもつ生徒が通います。しかしながら、特別な教育が必要な生徒は誰でも、ORRS (Ongoing and Reviewable Resourcing Scheme) とよばれる援助を受ける資格があるないにかかわらず、公立校あるいは一部公立の私立校に入学する権利があります。

通信教育制度 (Correspondence schools) は1番近い学校からかなり離れて暮らしている生徒に通信教育を提供します。この教育を受けられる生徒の学費は無料です。詳しくは www.minedu.gov.nz で 通信教育受講条件 (the correspondence school enrolment criteria) を検索して下さい。

私立校 (独立校) (Private [independent] schools) は政府の (公立の) 学校ではありません。独自の独立した理事会によって運営されていますが教育省への登録は必要です。共学校や男子校・女子校があります。私立校には学費を納めます。奨学金制度が利用できることもあります。

自宅学習 (Home schooling) は家庭で子供に教育を行いたいという親や保護者が利用できます。親や保護者は教育省からのホームスクーリングの許可を得る必要があります。

学校教育の段階：

学校	子供の年齢の目安	学年
プライマリースクール	5-10才	0-6年
インターメディエイトスクール	11-12才	7-8年
セカンダリースクール	13-19才	9-13年

入学（enrolment） 一般的に生徒は住居から一番近い学校に通います。生徒数に限りのある公立校（下記の学区制導入学校をご覧ください）や一部公立の私立校には入学に際して人数制限があるかもしれません。

学区制導入学校（Zoned schools） には「入学要綱」がありその学校の校区に住んでいる生徒だけが入学できます。また、校区外に住んでいる生徒も入学を申し込む事ができ、もし空きがあればそのおりに抽選をします。

抽選（Ballot） とは学区制導入学校の応募が定員を超えている場合に学校が行う抽選のことをいいます。

教育機関評価局（Education Review Office=ERO） は学校と幼児教育機関の調査と報告を行います。学校と幼児教育機関の最新の報告はwww.ero.govt.nzをご覧ください。

生徒の家庭の経済状況の平均値（Deciles） ほとんどの学校は教育省から基金を受けています。しかしながら、各学校の基金の内容はさまざまであり、生徒の家族の収入によって違ってきます。生徒の家庭の経済状況の平均値（デシイル）が高いほど学校が受け取る基金は低くなります。

転校（Changing Schools） お子さんの情報や報告書を現在の学校から転校先に送ってもらうためにも、転校時の連絡はできるだけ早く学校にしましょう。

学校で教えること

NZの学校は全ての生徒の学習の達成と成功に力を注いでいます。学校で知識と技術を身につけることにより、生徒は人生における挑戦や機会に立ち向かうよりよい準備をしています。

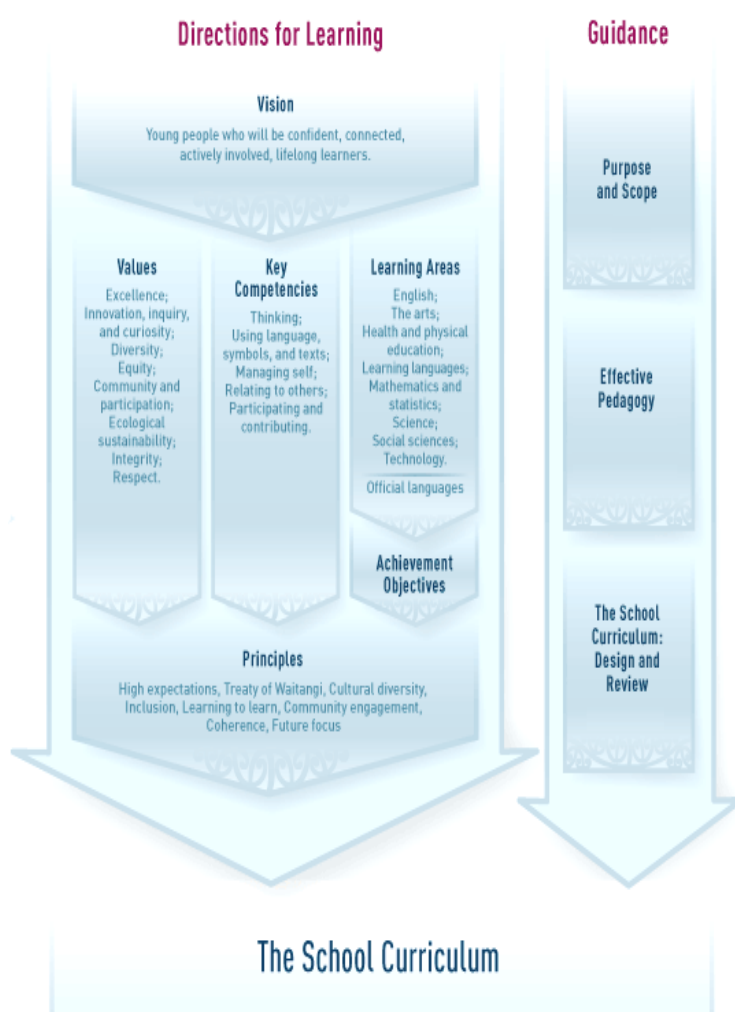
必修分野 (Essential learning areas) 1年生から6年生の間に生徒は保健体育・芸術・社会・技術・科学・算数/数学・統計・英語を学びます。7年生から10年生ではそれらの分野に加えて外国語を学ぶことになります。

音楽 (Music) は芸術科目のひとつです。芸術にはダンス、演劇、美術も含まれます。1～8年生で生徒はこれらの芸術全てを学びます。9・10年生ではこれらから少なくとも2科目学び、11～13年生では1つあるいは専門的になるためにもっと多くの科目を選択することができます。

課外授業 (Education outside the classroom=EOTC) は教室で学び教えるものではありません。博物館やマリの集会場（マラエ）を訪れたりキャンプをしたりするのがこの活動に含まれます。一般的にプライマリースクールやインターミディエイトスクールの全生徒は毎年行われるキャンプに参加します。ほとんどのセカンダリースクールでは特定の年にキャンプを行います。

宗教教育 (Religious education) 公立校では学校理事会の許可を受けてから小学校の生徒に対して週に1回、約30分間の宗教教育を行うことがあります。お子さんに宗教教育を受けさせたくない場合は校長に書面で連絡して下さい。宗教教育の間、お子さんは大人の保護のもとで過ごせます。

The New Zealand Curriculum





他の言語を話す人のための英語 (English for Speakers of Other Languages=ESOL) は母語が英語でない生徒のために用意されています。生徒自身が移民や難民であったり、移民や難民である親からニュージーランドで生まれた生徒は必要であれば学校において追加の英語の授業を受けることができます。このESOLクラスでは最低30分間の授業が週に何回か行われます。はっきりした授業時間数は生徒の英語のレベルによります。詳しくは www.minedu.govt.nz/goto/esolfunding をご覧ください。

評価 (Assessment) プライマリスクールとインターメディアイトスクールを通して先生は生徒の進歩をさまざまな方法で評価します。入学した時には入学時の評価が行われます。通常、評価は生徒が学校に通い始めて2～3週間後に行われます。2010年より1～8年生のいる学校では、活用力（読み書き）と計算力（算数/数学）の全国基準に対する生徒の進歩と到達度を測ります。全国基準に遅れている生徒を早期に認識することで学校、教師、保護者はどのように生徒の到達度を改善し、また、どのようにさらなる援助を適正に提供するかについて決めることができます。通常、8年生は9年生になる前に到達度を測るテストを受けます。一般的には9年生からは年度末テストを受けることになります。11～13年生は全国共通学力試験 (National Certificate of Education Achievement=NCEA) を受けます。評価は試験だけで下されるものではありません。年間を通して評価のための重要な課題が課されます。

飛び級 (Promotion through the grades) もし、その生徒が著しく学業にすぐれていると学校が認め、その生徒にとって利益になると学校が考えればその生徒は飛び級をすることができます。

才能のある生徒 (Gifted and talented students) もしお子さんに才能があると思うなら幼稚園教諭や学校教諭に相談してみてください。学校にはそのお子さんに才能があるかどうか判断する手法があります。多くの学校に才能のあるお子さんのためのプログラムやクラスがあります。

全国共通学力試験 (National Certificate of Education Achievement=NCEA) と奨学金 (Scholarships) NCEAはニュージーランドで学ぶ生徒のためのニュージーランドの国家資格です。生徒は学校による内部試験と国立資格審査局 (New Zealand Qualifications Authority=NZQA) による外部試験によって到達度を測られます。11年生はNCEAのレベル1を得るために80クレジット (Credit=課目履修単位) が必要です。12年生はレベル2を得るためにレベル2以上で60クレジットを取得し、しかも他のレベルからも20クレジットとることが必要です。13年生はレベル3を得るためにレベル3以上で60クレジットを取得し、しかもレベル2以上から20クレジットとることが必要です。詳しくはwww.ncea.govt.nz をご覧下さい。奨学金試験は外部試験です。試験はNCEAのレベル3に似ていますが要求される基準はより高度になります。学校や先生に聞いて確かめて下さい。

学校の運営について

ニュージーランドでは学校理事会 (BOT) がすべての公立校とステートインテグレートドスクールを運営しています。全ての学校は1989年の教育条例と他の法律の規定のもとに運営されています。

学校理事会 (Boards of trustees=BOT) には親と保護者によって選ばれた親の代表が含まれています。代表たちはボランティアとして働き学校運営にかかわる重大決議を行います。

校長 (The principal) の仕事は学校の日々の活動を管理することと学校理事会が計画したことを実行することです。

憲章 (Charter) は学校が何をしたいのかそしてどのようにそれを達成するのかをあらわした学校理事会 (BOT) による宣言です。どの学校も独自の憲章を有していて毎年それを更新し優先事項を示します。

学費と寄付 (Fees and donations) 公立校の学費は無料ですが一般的に寄付をお願いされます。寄付は学校のプログラムを円滑に行うために必要なものです。質問がある方は校長におたずね下さい。

制服 (Uniforms) 制服のある学校もあります。制服を義務づけられている学校に入学した場合は制服を着用しなければなりません。時おり「マフティデー (mufti day)」といって私服登校をしてもよい日があります。通常、生徒はマフティ日には1または2ドルコイン (ゴールドコイン) を持って登校します。そのお金は援助の必要な人々のためあるいは他の特別な目的に使われます。

教科書と文房具 (Textbooks and stationery) 教育省は各学校に模範となるニュージールランドカリキュラムを提供します。通常、各学校は教育省のカリキュラムを支持する学校独自の教科書を選びます。入学すると各自が必要な文房具の一覧が渡されます (たとえば、練習帳、色鉛筆など)。

宿題 (Homework) 各学校は生徒がすべき宿題の量や内容を独自に決めます。詳しくは先生や校長におたずね下さい。

報告書 (Report) は通常、1年に少なくとも2回出ます。この学校報告書は保護者面談で提示されます。さらに、2010年以降、報告書は少なくとも年に2回、簡略な言葉で記されることとなります。生徒の達成度、学習態度、学業成績が報告されます。

クラスの人数とグループ作り (Class size and class grouping) ほとんどの学校では1クラス25～30人です。しかし、低学年ではより少人数となることがよくあります。クラス内でグループに分かれて学習することはプライマリースクールではとてもよくあることです。算数や読みの練習を同じレベルのグループで行うことはよく見かける光景です。

サポートシステム (Support systems) もしニュージーランドの教育システムについてもっと詳しく知りたい、お子さんに学習あるいは行動に障害があり援助を必要としている、カウンセラーや経験のあるアドバイザーを必要としている場合は学校や先生にご相談下さい。

しつけ (Discipline) ニュージーランドでは先生は生徒に対する体罰（たたく、ムチで打つ、平手打ち）を禁止されています。生徒をしつけるために学校は宿題を多く出したり放課後に居残りをさせたり(detention)特権のとりさげをすることができます。もし生徒が居残りをする場合は学校から保護者に連絡します。生徒の違反がより深刻な場合は停学（数日間学校に通えない）となります。違反がとても深刻な場合は退学あるいは放校処分（別の学校へ転校しなくてはならない）となります。

問題解決 (Handling problems) 学校生活において問題が生じた時は先生や校長に相談しましょう。うまくいかない場合はどのように問題を処理したらいいか校長にたずねて下さい。保護者はサポートしてくれる友人を問題解決のための場に連れていくことができます。

出席の義務 (Attendance requirements) 6才から16才の子供は学校に通わなくてはなりません。保護者には子供を学校に通わせる義務があります。子供が学校へ行けない場合、保護者は事前に電話や可能であれば書面で早めに学校に知らせなければなりません。

学期と長期休暇 (Terms and holidays) ニュージーランドは1年4学期制です。約6週間の夏休みと学期の間に2週間の休みがあります。1学期は2月初旬から4月中旬まで、2学期は4月下旬から6月下旬まで、3学期は7月中旬から9月下旬まで、4学期は10月中旬から12月下旬まで（セカンダリスクールは12月中旬まで）となります。詳しい日程は www.minedu.govt.nz のTerms and holidaysをご覧ください。

祝日 (Public holidays) ニュージーランドの祝日はお正月（1月1・2日）、ワイタングィー（2月6日）、ゲットフライデー、イースターマンデー、アンザックデー（4月25日）、女王誕生日（6月の第1月曜日）、労働者の日（10月の第4月曜日）、クリスマス（12月25日）、ホークリングデー（12月26日）です。ニュージーランド各地の記念日はそれぞれ日にちが違います。通常祝日は学校はお休みとなります。

授業時間 (School hours) ほとんどのプライマリスクールは9時頃始まり3時頃終わります。インターミディエイトスクールとセカンダリスクールは通常8:45に始まり3:15に終わります。プライマリスクールの場合、始業より早く子供を学校に連れて来ないようにして下さい。生徒の安全を管理する大人がまだ仕事に就いていません。学校が終わったらすぐに子供を迎えに来て下さい。時間外に子供を送迎する場合は学校に相談して下さい。授業時間の前後に学童保育 (before and/or after school care) をしている学校もあります。学童保育は有料となります。

休憩と昼食 (Interval and lunchtime) 学校では休み時間が何回かあります。モーニングティ（おやつの時間）と昼食時間も休み時間に含まれます。正確な時間は学校によってさまざまです。多くの学校にはカフェや売店があってそこで昼食を注文したり買ったりできます。一般的には保護者がお弁当を持たせます。

送迎 (Transport) 家が1番近い学校から遠かったり特別な介護が必要な生徒は学校への送迎が受けられる場合があります。詳しくは www.minedu.govt.nz/goto/schooltransport をご覧下さい。スクールバスを運行している学校もあり通常有料となっています。

保健サービス (Health services) 地域の保健サービスを学校で受けることができます。視力検査、歯科検診、予防接種（就学中の様々な時期に行われます）などのサービスがあります。詳しくは先生や学校におたずね下さい。

親の会 (Parent groups) 多くの学校では親たちは協力してお互い助け合っています。親たちはまた、基金集めをはじめとする学校を支える活動に参加します。Parent-Teacher AssociationやHome-school association あるいは friends of the school という名で知られています。

親と学校の関係

学校の先生と協力してお子さんの学習の手助けをすることができます。先生とときどき連絡を取り合うのはいいことです。先生と相談したい場合は始業前あるいは放課後に相談するか学校の受付を通して相談日時の予約を入れて下さい。

親は子供の教育を以下の方法でサポートできます：

- 学校に遅刻させない
- 学校から手紙や学校新聞をもらったか子供に聞く、あるいは、かばんの中に学校からのお知らせが入っていないか定期的に確認する
- 保護者会に参加する
- 学校の報告書について子供と話す
- 学校行事に協力する（遠足、バザー等）
- 親の会に参加する
- 学校理事会のメンバーになる

家庭も子供にとってはよき学ぶ場所です。家庭でできることは：

- テレビやパソコンで遊ぶ前に宿題を終わらせる
- 子供がテレビやパソコンを長く見過ぎないように注意する
- 家で学んだり本を読んだりするように促す
- 宿題や課題をやったときはほめるようにする
- 子供と教育について話し合う
- 子供の成績をほめる
- 家庭では子供の母語を使う。英語が母語でない場合 家庭では英語を努力して使うことはしない

ニュージーランドの教育に関する図書

(以下の出版物をご希望の方はお近くの教育省あるいはWickliffe Ltd 0800 660 662 におたずね下さい)

- Asttle (Assessment tool for teaching and learning)
- Be there for our students ... become a school trustee
- Choices in early childhood education
- Families Learning Together
- Gifted and talented students
- How is my child progressing
- How is your child really doing at school?
- Meeting your child's special education needs
- NCEA: the national qualifications framework in schools
- Off to a good start
- School in New Zealand: A guide
- Secondary school qualifications today
- Secondary school qualifications: A guide for students
- Team-up: Helping Our Kids Learn
- The NZ education system: An overview

省略語

- ANZAC=Australia New Zealand Army Corps
- BOT=Board of Trustees
- ECE=Early Childhood Education
- EOTC=Education outside of the classroom
- ERO=Education Review Office
- ESOL=English for speakers of other languages
- GP=General Practitioner
- MOE=Ministry of Education
- NCEA=National Certificate of Educational Achievement
- NESB=Non English speaking background
- NZ=New Zealand
- NZQA=New Zealand Qualifications Authority
- ORRS=Ongoing and Reviewable Resourcing Schemes
- PTA=Parent Teacher Association
- RTLB=Resource Teacher and Learning Behaviour

www.schoolzones.co.nz

www.nzmaths.co.nz

20